

令和2年4月27日

**【研究題目】左室補助装置使用中患者における経皮的脳血栓回収術の多施設共同観察研究**

**【研究の目的・意義】**脳主幹動脈閉塞による虚血性脳卒中に対しては経皮的脳血栓回収術が有効です。左室補助装置装着中の患者さんは健常者よりも脳卒中を発症するリスクが高いため、この治療法によって予後が改善されると期待されています。しかし、左室補助装置装着中の患者さんで行われた経皮的脳血栓回収術の報告は少ないため、どのように治療するのが最善かは一部未解明です。

そこで、患者さんの臨床的背景や治療手技、予後などのデータを解析し左室補助装置を使用していない群と比較することで現在行われている治療の状況を明らかにするとともに最適な治療方法について検討を行います。

**【研究に用いる情報の種類】**病歴、治療記録、治療後経過、副作用等の発生状況、画像情報、カルテ番号  
閉塞脳血管から回収された血栓の病理結果

**【研究期間】**研究機関の長の許可日～2022年3月31日まで

**【研究の方法】**通常の医療において取得された診療情報(既存情報)を用い、脳血管内科、脳神経内科で診療を受けた患者さんの臨床的・画像的特徴および血栓の病理像について、統計学的手法を用いて解析を行います。

**【研究機関】**

本研究では、上記の診療情報等は、研究の共同実施のために、大阪大学医学部附属病院 神経内科・脳卒中内科 研究代表者 北野貴也に対して提供されています。

大阪大学医学部附属病院 神経内科・脳卒中科 責任者:北野貴也

国立循環器病センター 脳卒中集中治療科 責任者:田中寛大

東京女子医科大学附属病院 脳神経外科 責任者:石川達也

大阪急性期・総合医療センター 神経内科 責任者:坂口学

**【対象となる方】**2006年4月1日から2018年5月31日までに脳梗塞を発症し、国立循環器病研究センターにて経皮的脳血栓回収術を受けた患者さん

**【個人情報の取り扱い】**個人を同定できる情報を削除し、匿名化を行います。学会、論文発表の際にも、個人を同定できる情報が出ることはありません。この研究について、さらに詳しい内容を知りたい場合や今回のデータ使用について同意をいただけない場合には、いつでも構いませんので、お手数ですが下記の問い合わせ先まで連絡ください

**【問い合わせ先】**

国立循環器病研究センター 脳卒中集中治療科 医師 田中寛大

電話番号:06-6170-1070